木造住宅建築の墜転落災害を防止しよう

Chapter.5

ヒューマンエラーによる墜転落災害の防止策

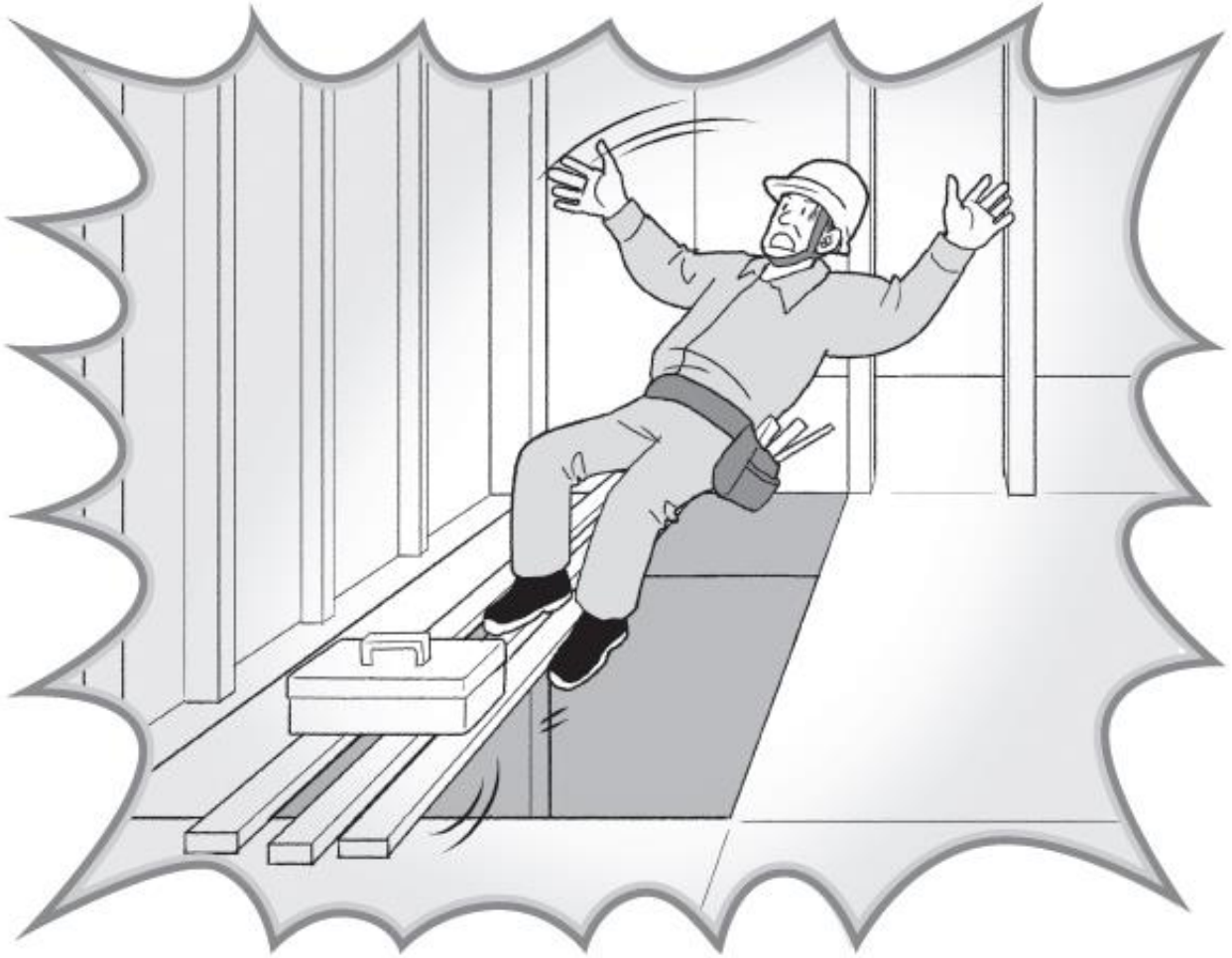
①危険軽視
②不注意
③近道・省略行動
④その他ヒューマンエラー

講師　小松泰彦（建災防セーフティエキスパート）

一般社団法人　日本木造住宅産業協会

① 危険軽視

災害事例 階段開口部に道板がわりに間柱を並べて金物取付け中、バランスを崩して墜落



作業者の心理

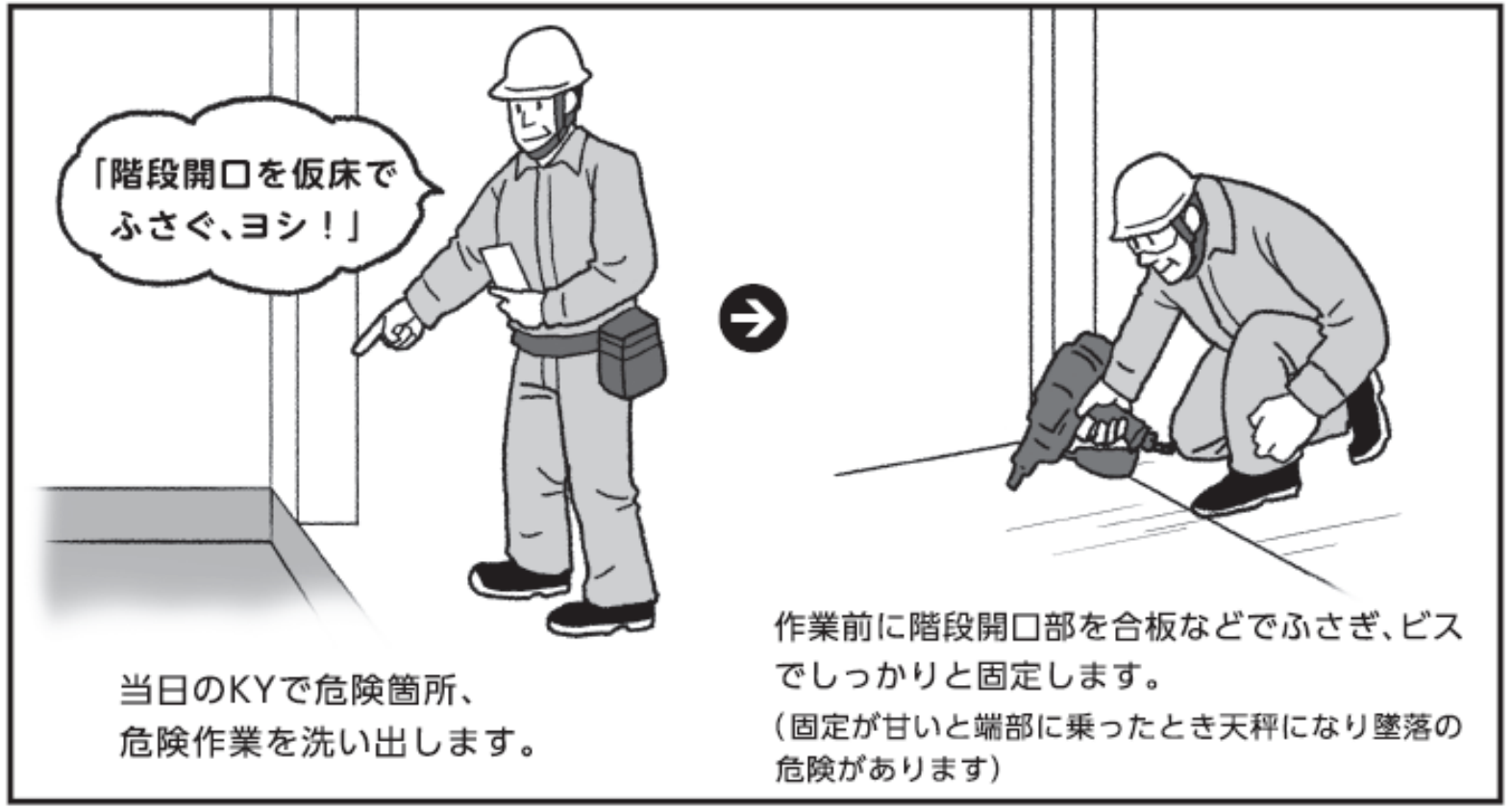
工事管理者の心理

プロの職人、しかもベテランがやっているんだから自信があるんだろう
変に注意してへそを曲げられても困るし、職人に任せておこう

作業者は

● たかがKY（危険予知）、されどKY。

慣れを戒め安全の初心にもどるには、始業前のKYが最も効果的です。



工事管理者は

● 言う気は、勇気から。

「安全第一」は監督として最優先の仕事という、初心を忘れずに。

監督や職長が、職人の不安全行動を見て見ぬふりをしてはいけません。
勇気を持ってしっかりと注意します。

管理者は「安全ルールに妥協はない」という強い意識を持ち、日頃から親身になって指導にあたります。

危険軽視による災害はどうすれば防げたのか？

慣(いまし)れを戒め 常に初心にもどる！

危険やミスを回避する手順は、往々にしてステップが多く、時間もかかります。多くの人は軽い気持ちで安全のルールを無視して危険な作業をしてしまい、幸いにもこれまで事故が起きなかった。その経験が積み重なれば積み重なるほど、ルール違反の不安全行動は「慣れ」となって身についていきます。

慣れを戒め初心にもどること、これは作業者も管理者も、現場に入るすべての人が、毎日心掛ける必要があります。

② 不注意

災害事例 足場上でサイディング作業中、
クランク状の足場の開口より墜落

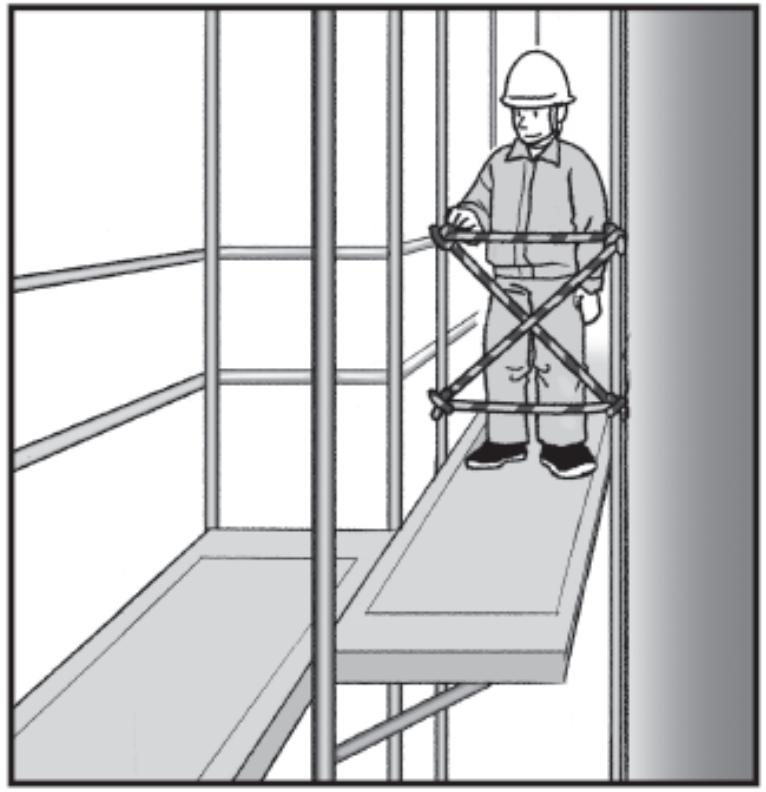
作業者の心理

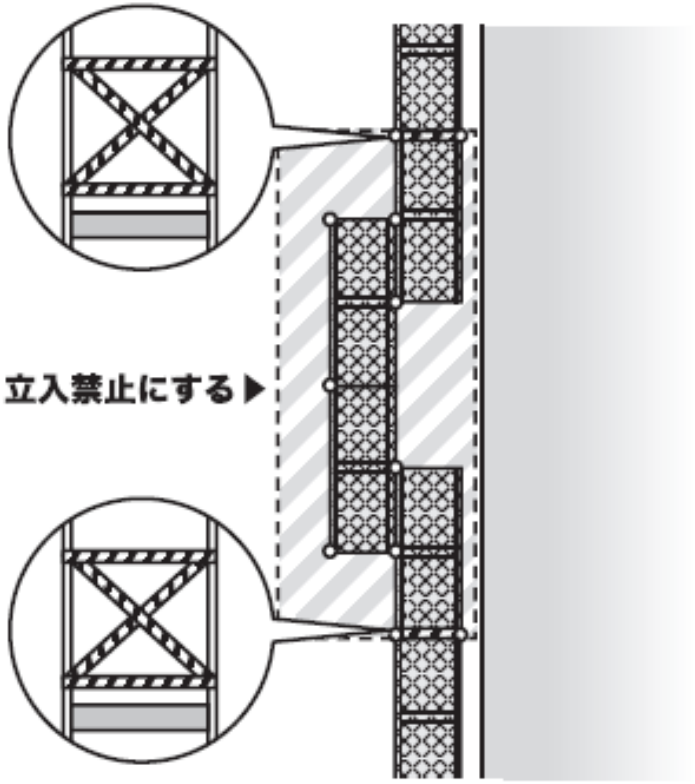
工事管理者の心理

作業者は

● 事前の一策で、自分の身を守る。

作業に集中していても危険に気づく対策を施します。



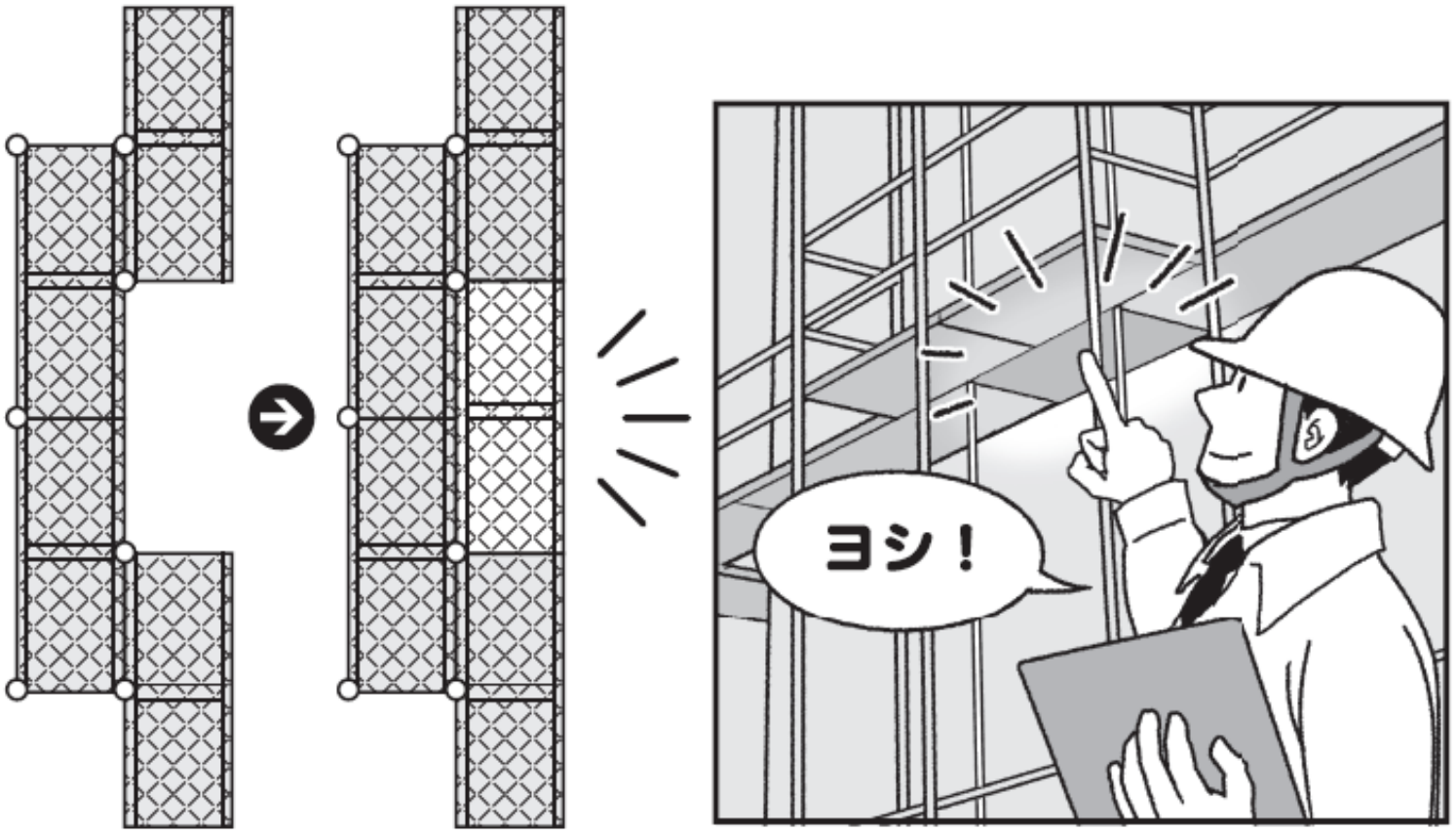


作業前にトラロープやストッパーなどを施し、足場の開口部に立入れないようにする。

工事管理者は

● 口頭で注意するだけでなく、不安全状態を無くす。

出窓がつくまで足場の開口部を放置せず、ブラケット作業床などで開口部をふさいでおく。



事前の対策で危険要因を除去する！

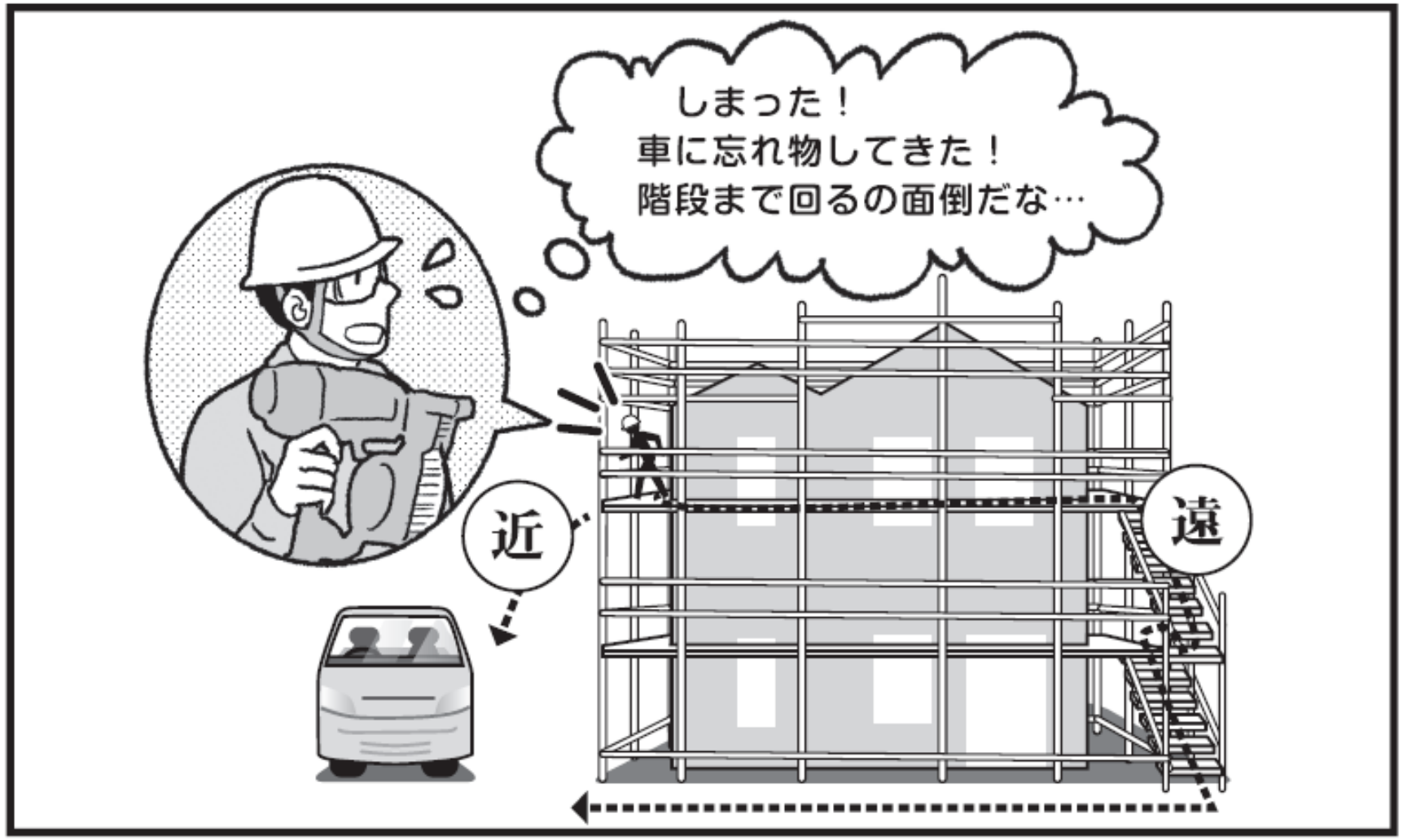
不注意による災害を防止するためには「注意して作業しろ！」では解決しません。なぜなら人は一つのことに集中すると他のことには不注意になるからです。とくに品質に気を配る建築職人であればなおさらでしょう。

作業と安全の２つの仕事を同時に行わない、そのためには事前に現場の危険要因を除去して、安心して作業に集中できる環境を整える必要があります。

③近道・省略行動

災害事例 足場の建地をつたって降りる途中、足を滑らせて墜落

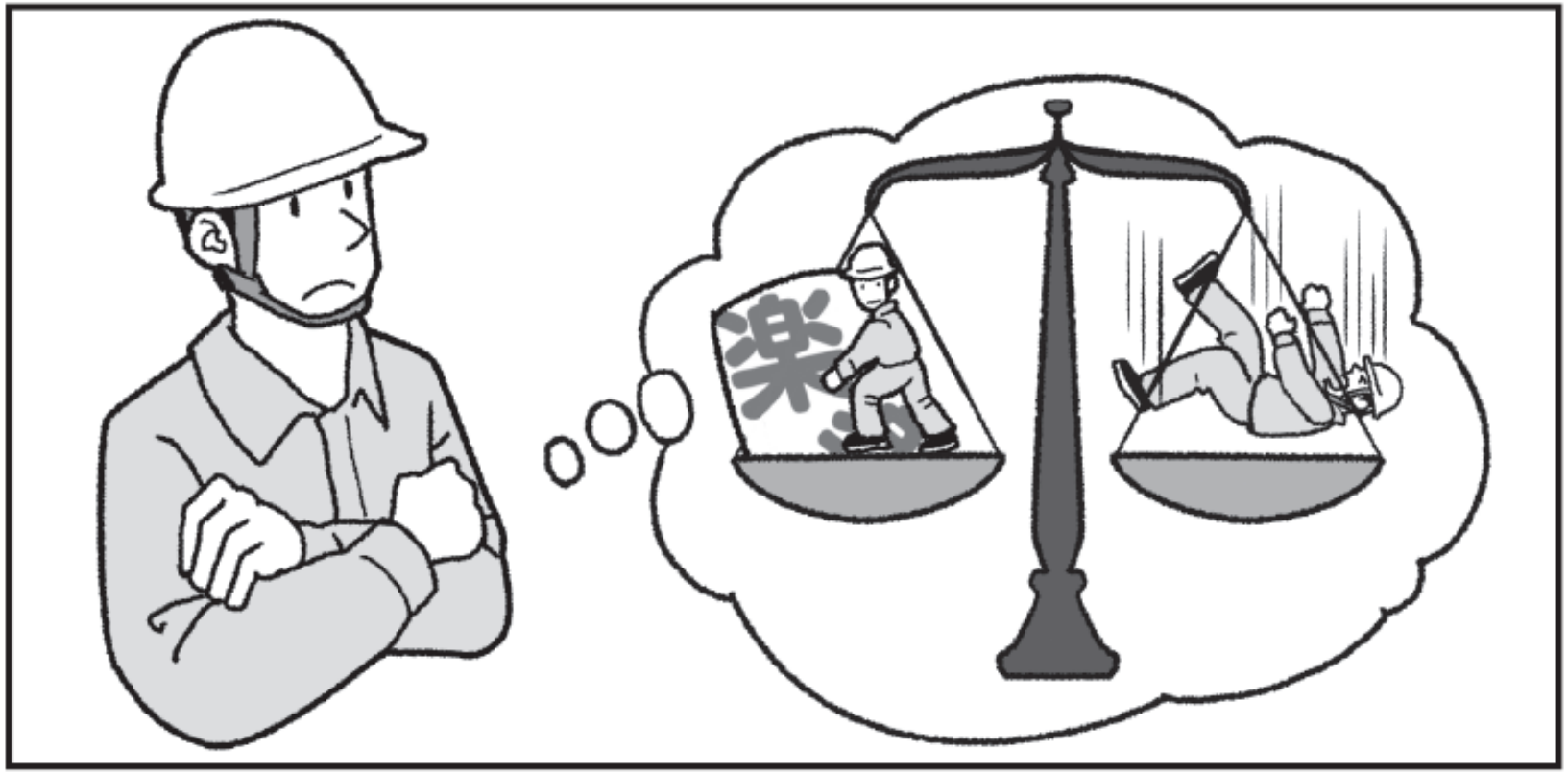
作業者の心理



工事管理者の心理

作業者は

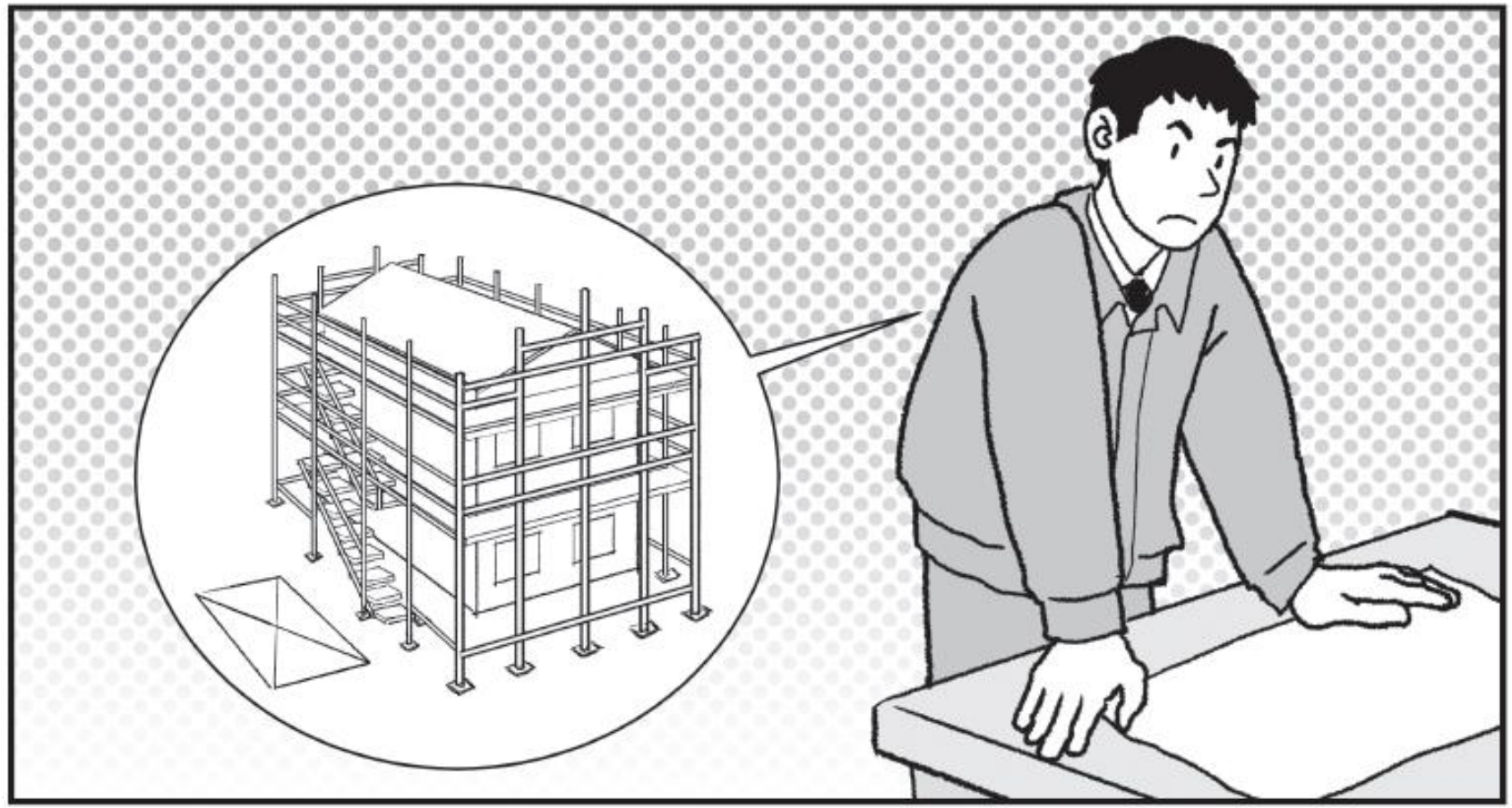
● 近道を選んだつもりが回り道。



近道行動は本当に近道かを、作業者の方はよく考えましょう。手間と時間を惜しんで大きなケガを負うのは、人生の回り道になりますよ。

工事管理者は

●イメージすれば、危険が見える



危険に敏感となり気持ちを抑制する！

「人間は最小のエネルギーで最大の効果を上げようとする」これはゲシュタルトの法則といいます。人は工夫をできる、近道をさがせる頭脳を持っている、だからこそ「近道・省略行動」は後をたたないのです。

「面倒だ、急ぎたい」という心理に打ち勝つのは簡単ではありません。まずは作業者の危険への感受性を高め、不安全行動を抑制するための安全教育の実施が不可欠です。また作業者の近道・省略行動本能を起させないような、動線を考えた使い勝手の良い仮設計画を立てることも効果的な防止策です。